



冷えに伴う諸症状

知っておきたい
漢方4処方

体力の低下した
冷え症の人で
貧血傾向、
軽度の浮腫、腹痛※



筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、
腰脚の冷えやすいものの次の諸症
**更年期障害、月経不順、
貧血、倦怠感に**

トウ キ シャク ヤク サン
23 ツムラ当帰芍薬散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

冷え症で体質虚弱、
寒冷のため
手足が冷えて
痛む※



手足の冷えを感じ、下肢が冷えると
下肢又は下腹部が痛くなり易いものの次の諸症
**しもやけ、頭痛、
下腹部痛、腰痛に**

トウ キ シ ギ ャ ク カ コ シ ユ ユ シ ョウ キョウ トウ
38 ツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

体力低下、口唇の乾燥、
下腹部の冷え、痛み※



手足がほてり、唇がかわくものの次の諸症
**足腰の冷え、湿疹、
更年期障害に**

ウン ケイ トウ
106 ツムラ温経湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

老人や
体力の低下した人の
腰部や下肢の脱力感、
しびれ、排尿の異常※



疲れやすくて、四肢が
冷えやすく尿量減少または
多尿で時に口渇がある次の諸症
**下肢痛、腰痛、しびれ、
かゆみ、頻尿に**

ゴ シャ ジン キ ガン
107 ツムラ牛車腎気丸
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

23 ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症：貧血、倦怠感、更年期障害（頭暈、頭痛、めまい、肩こり等）、月経不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病（浮腫、習慣性流産、痔、腹痛）、脚気、半身不随、心臓弁膜症

〈参考：証に関わる情報〉使用目標＝証*

比較的体力の低下した成人女子に用いられることが多く、一般に冷え症で貧血傾向があり、性周期に伴って軽度の浮腫、腹痛などを呈する場合に用いる。

- 1) 全身倦怠感、四肢冷感、頭痛、めまい、耳鳴、肩こり、心悸亢進などの症状を訴える場合。
- 2) 無月経、過多月経、月経困難など、月経異常のある婦人。

(2014年10月改訂)

38 ツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

手足の冷えを感じ、下肢が冷えると下肢又は下腹部が痛くなり易いものの次の諸症：しもやけ、頭痛、下腹部痛、腰痛

〈参考：証に関わる情報〉使用目標＝証*

平素より冷え症で体質虚弱な人が、寒冷のため手足が冷えて痛み、下腹部痛や腰痛などを訴える場合に用いる。

- 1) 頭痛、悪心、嘔吐などを伴う場合。
- 2) 下腹部や腰部に外科的手術の既往があって上記の症状を呈する場合にも多く用いられる。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
過敏症 ^(注1)	発疹、痒疹等
肝 臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇)
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年10月改訂)

リウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド、エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トリクロロメチアジド	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸及び利尿剤は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注1)	発疹、発赤、痒疹等
肝 臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇等)
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2009年6月改訂)

106 ツムラ温経湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

手足がほてり、唇がかわくものの次の諸症：月経不順、月経困難、こしけ、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけ

〈参考：証に関わる情報〉使用目標＝証*

比較的体力の低下した冷え症の人で、手掌のほてり、口唇の乾燥、下腹部の冷え、痛みなどを訴える場合に用いる。

- 1) 性器出血、月経異常、不妊などのある婦人。
- 2) 上記症状は、性周期に関連して消長することが多い。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー：低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注1)	発疹、発赤、痒疹、蕁麻疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

107 ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渴がある次の諸症：下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ

〈参考：証に関わる情報〉使用目標＝証*

比較的体力の低下した人あるいは老人で腰部および下肢の脱力感、冷え、しびれなどがあり、排尿の異常(特に夜間の頻尿)を訴える場合に用いる。

- 1) 上腹部にくらべて下腹部が軟弱無力の場合(臍下不仁)。
- 2) 多尿、頻尿、乏尿、排尿痛などを伴う場合。
- 3) 疲労倦怠感、腰痛、口渴などを伴う場合。
- 4) 高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がりで、のぼせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれることがある。] (3)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等があらわれることがある。] (4)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。フシを含む製剤との併用には、特に注意すること。

3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注1)	発疹、発赤、痒疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2014年10月改訂)

※使用目標＝証 監修：大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

- 用法及び用量：通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
- 日本標準商品分類番号：875200 ■ 薬効分類名：漢方製剤 ■ 取扱い上の注意：(貯法) しゃ光・気密容器／(使用期限) 容器、外箱に表示
- 製造販売会社：株式会社ツムラ

・組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与)、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年 3月制作)
(2017年11月改訂)

PSD007 (審)